第9回 大東地区

川合市長と語り合うタウンミーティング

日時：平成21年7月15日（水）

午後6時30分～8時30分

場所：大東南公民館

対象地区町字名

大字豊田本、大字池辺、大字豊田新田、大字南大塚、大字大塚新田、大字大袋、大字大袋新田、大字山城、大字藤倉、大字増形、南台一丁目、南台二丁目、南台三丁目、寿町一丁目、寿町二丁目、大字青柳、四都野台、日東町、豊田町一丁目、豊田町二丁目、豊田町三丁目、南大塚一丁目、南大塚二丁目、むさし野の一部、大塚新町

参加者

1 性別

男性	114
女性	51
無回答	0
合計	165

2 年齢別

	20歳未満	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	無回答	計
男性	1	1	3	12	13	56	28	0	114
女性	0	0	5	16	8	14	8	0	51
無回答	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	1	1	8	28	21	70	36	0	165

3 職業別

	学生	会社員 公務員	自営業	主婦	農業	その他	無回答	計
男性	1	25	12	0	14	62	0	114
女性	0	5	3	41	0	2	0	51
無回答	0	0	0	0	0	0	0	0
計	1	30	15	41	14	64	0	165

出席者

市長、大野副市長、石川副市長、広報監、総合政策部長、総務部長、市民部長、福祉部長、環境部長、都市計画部長、建設部長、教育総務部長

意見数

1 会場

発言者数... 15人

意見内容

分類	件数	内 容	頁
道路・交通	9	・道路拡幅・一方通行の解除について	6
		・道路の振動対策について	7
		・安比奈車両基地整備計画について	8
		・遊歩道の整備について	8
		・外周道路の整備について	8
		・シャトルバスのバス停について	8
		・シャトルバスについて	9
		・南大塚駅の通路について	12
		・関越の側道整備について	13
環境・衛生	1	・南大塚駅周辺の雨水対策について	4
公園	2	・児童公園の設置について	7
		・池辺公園整備について	13
災害	4	・起震車の増設について	5
		・防災訓練について	10
		・避難所生活ルールの制定について	11
		・広域避難場所の指定について	11
その他	3	・市民センターの建設について	4
		・市民センターの建設について	12
		・市民センターの建設について	13
計	19		

2 ご意見用紙

時間の都合でご発言いただけなかった方につきましては、会場入り口に「ご意見用紙」を設置し投かんしていただきました。

分 類	件数	内 容	頁
教育・文化	1	・部活動について	1 5
道路・交通	2	・一方通行の解除について。 ・踏切の拡幅について。	1 4
環境・衛生	1	・桜並木の整備について。	1 5
施設運営	1	・南大塚駅南口の駐輪場について。	1 4
市職員	1	・市職員の天下りについて。	1 4
計	6		

意見交換（要約）

《市民センターの建設》

意見 大東市民センターということで、今要望を市のほうに出しているわけでございます。6月に予算がついたということで、20年近くなる長い間の悲願である事業がクライマックスという状態ではありますが、財政も厳しいというようなこともありますが、文化活動の中心の施設として、また出張所、公民館の複合施設として期待をしているところでございます。今後の進め方や進展等をお示しいただければありがたいと思います。

西川総合政策部長 大東地区のコミュニティ整備事業につきましては、もう20年近く前から地元の方々と検討してきた経緯があるかと思えます。場所の関係が課題となっておりまして、なかなか思うように進んでこなかったという経緯がございます。

平成20年2月には、建設候補地を含めたご要望をいただいたところでございます。地権者の方々とお話をいたしまして、ご協力をいただいたところで用地を確定いたしまして、平成21年4月には農振除外の手続が完了をしたところでございます。

6月26日には、出張所と公民館の複合、ふれあいセンターの規模ということを含め、市民センターということでのご要望をいただいたところでございます。

今後につきましては、導入機能の地元との話し合い、またそれが決定すれば、どのような形でやるのか、建設の実施設計に進んでいきたい、そしてそれらが決定すれば、最後には建設ということを進めさせていただきたいと思っております。

いずれにしましても、今後地元の方のご協力をいただきながら、事業を進めていくつもりでございますので、よろしく願いいたします。

《南大塚駅周辺の雨水対策》

意見 時間雨量が50ミリを超えるような雨が瞬間的に降りますと、南大塚の駅前には水浸しになるんですね。5、6年ぐらい前に、ロータリーの下に貯水槽をつけてもらったんですが、その貯水槽がどうもうまく機能していないんじゃないかなと思うんです。時間雨量が50ミリを超えると、大体膝の下ぐらいまで水がたまった状態になります。

工業団地から南台3丁目に向かってくる道路に側溝があるわけですが、水の取り入れ口が街路樹の葉っぱで全部ふさがっちゃうんですね。そして一番低いところにたまってしまうという問題があります。市に何度か清掃していただいたんですが、まだ完全ではないということで、その辺を考えていただくと大変ありがたいと思っております。

染谷建設部長 雨水排水は事業推進部の所管ですが、以前事業推進部におりましたのでお答えさせていただきたいと思えます。

台風等で強風のときは樹木の葉が落ち、またビニール袋といったものが吸い込み槽の蓋などをふさいでしまうという状況で、どんどん下流のほうに流れて、南大塚駅のほうに入るといような状況だと思います。

以前から駅広とか公園内といった所には貯留施設をつくる努力はしてきましたが、雨量の関係で、まだまだ足りないというのは事業推進部としても認識しております。さらに今、ここの公民館の所に公園があると思いますが、その辺にも貯水槽をつくっていきたいという考え方もございます。いずれにしても、ある程度の公共用地がありましたら、そこに貯留槽をつくって、雨水を一時的にその貯留槽にためて時間差をつくりまして、うまく流れが機能できるように今後とも考えていきたいと思っております。

川合市長 ご指摘くださった南大塚の駅前に限らず、最近の浸水は川の周辺だけではなく、町中のあちこちで多く起こっています。コンクリートやアスファルトで地面が固められてしまったため、降った雨が全部下水に流れ込んできて、その能力を超えてしまって、床上あるいは床下浸水を起こしてしまうという状況があちこちでございます。

対応としては、公園などの公共用地の下に水をためるところをつくって、一時的に雨水をためて、道路の上に水がたまるのを防ぐというような対応をしております。

お話では、その貯水槽の能力が足りないというのではなくて、うまく機能してないようですので、きちんと調べて、例えばごみを除去する、事前によく落ち葉を清掃するなど、ある程度の対応ができるのであれば、そういうことを検討していきたいと考えます。

《起震車の増設》

意見 防災訓練に当たりまして、起震車というのがございますが、その起震車が現在は1台のみと聞いております。南大塚自治会としましても、ブロック合同で大東公民館や東山公園等3カ所ほどで毎年訓練をやっておるわけでございますが、大東分署に行きましても、訓練が重なってなかなかできませんので、ぜひ川越市のほうから消防組合に起震車をということで、お願いをしていただければと考えております。

大野副市長 昨年まで消防組合のほうに消防局長という立場でお世話になっておりましたので、お答えさせていただきます。

川越地区消防組合には消防車両が約65台ございます。また、消防団車両として18台のポンプ車があり、さらに指揮車が2台で20台、合計80台以上の車両があるということになるわけでございます。消防の部隊運営という中で考えますと、起震車は本当に良いと思うのですが、ポンプ車も更新しなければならぬ、65台の車も何とかやっていたかなければいけない、そういう中で予算的にかなりきついというところがございます。

起震車は年間90回程度出しておりますので、5,000人から6,000人の方に地震を体

験していただくことができ、大変効果があると思っておりますが、時期が9月から12月の4カ月に集中してしまうと言うことで、なかなか思うように皆様のご要望におこたえできかねる部分もあるわけです。訓練というのは、土曜や日曜など、人が集まる時期になりますので、どうしても重なってしまう。ほかの車両、例えば火災、緊急、救急車なども更新していかなければならないという中で、何としても1台だけは起震車を確保しておきたいという状況です。財政状況を勘案しながら、優先順位という中で考えていきたいと思っておりますので、どうかご理解をいただきたいと思っております。

川合市長 今、副市長からお答えしましたように、消防局のほうも財政状況を考えると、もう1台起震車を入れるというのは正直言って難しいというところでございます。頻繁に使われるのが9月から12月で、長い時間一カ所に置けないという状況だと思っておりますので、運用で当面は対応させていただきたいと考えております。

例えば防災訓練の時期を少し分散していただくとか、そういうようなことであれば、ある程度複数回あるいは長い時間、一つの自治会に起震車を置いておけるということになるかと思っておりますので、当面はそういう形でやらせていただきたいと考えています。

《道路拡幅・一方通行の解除》

意見 平成19年から、国道16号より今度の大東市民センターの建設予定地へ向かう道路の90メートルが一方通行なんです。大勢の署名をいただきまして一方通行の反対運動をいたしました。ところが、一方通行を実行されてしまいました。それは市ではありません、公安委員会だと思っておりますけれども。

問題は、その迂回のために、ほかの狭い道を朝、何百台という車が通過します。その3メートル、4メートルの狭い道は中学生等の通学路にもなっております、非常に危険なんです。これを何とかしていただきたい。今度、大東市民センターが北側にできる予定でございますけれども、できるなら拡幅していただいて両通の道路にしたい。よろしく願いいたします。

清水市民部長 平成17年に30名の沿線住民の方から一方通行にしてほしいという陳情がございまして、市から川越警察署を通して県警本部に伝え、さらに県の公安委員会で検討された結果、一方通行になったわけです。

沿線住民の方にとりましては、それなりの効果はあったわけですが、その道路を使用されている方につきましてはかなり不自由な状況が発生したのだらうと思っております。

ただいまのご質問の点につきましては、改めて川越警察署に申し伝えまして、検討されるように進めていきたいと思っております。

意見 確かに一方通行を請願した人は便利だと思います。だけど、ほかの何十倍もの人

が不便を来している、または危険にさらされている状態なので、何とか拡幅をお願いしたいと思います。

染谷建設部長 拡幅というお話がございました。現道幅が狭いので交互通行は難しいということで一方通行になっているのだと思いますが、拡幅すれば交互通行に戻るようなことは十分考えられます。家が道路に沿って大分建っていますけれども、地元の皆さんの総意による拡幅というお話であれば、建設部としても努力していきたいと思います。

《道路の振動対策》

意見 道路の振動によって大分被害が出ておりますので申し述べさせていただきます。

「つばさ」のスーパーマルナカから 16 号に向かって右側にかすみ公園がありまして、距離が 230 メートルぐらいの道路なんですけど、5 トンから 10 トンぐらいの車が朝方通るわけです。3 時ぐらいから 6 時ぐらいまででしょうか、結構うるさいんですね。

ガラスが割れたり蛍光灯が切れたり、建物は大きく揺れます。道路に亀裂が約 10 カ所ついております。マンホールの周りにも亀裂があって、それぞれ 50 センチぐらいの穴があいております。この道路の中にはガス管とか下水管が埋設されておるのではなからうかと思えます。もしものことがあった場合、ガスの爆発とかということも予想されますので、ぜひこの点をご調査いただいて善処願えればと思います。

染谷建設部長 今のご要望につきましては、それぞれガス、水道、下水の所管部分にお話させていただきますと思います。

建設部といたしましても、亀裂が入ってしまうということですので、路盤を調査させていただきますまして、悪いようであれば対応させていただきますと思います。

《児童公園の設置》

意見 南大塚地区は大東の中でも一番人口が多い地区でございます。その中で非常に児童公園が少ないんです。北側にもマンションができたりにして非常に人口がふえています。子どもの遊ぶ場所がなくて非常に困っております。

今度市民センターができると、あの公民館と出張所の跡地を更地にして売却するんだということですが、その用地と、それから隣にあります忠霊塔のところの駐車場、ぜひその跡地に児童公園をつくっていただきたい。これは要望でございます。

川合市長 川越は公園が足りない、特に児童公園が足りないということも認識しております。正式に児童館と言えるのが三つしかないという現状も認識しております。

子どもの施設が足りないということは十分認識しておりますので、できる限り努力して、早い時期に児童館ないしは児童公園等もふやしていきたいと考えておりますので、ご了承をいただきたいと思えます。

《安比奈車両基地整備計画、遊歩道の整備、外周道路の整備》

意見 西武安比奈線が使われなくなってから、もう 30 年以上たとうかと思います。

その安比奈線の安比奈地区、あるいは池辺地区に西武鉄道の車両基地の構想が持ち上がったわけです。住民に説明会をやったり、一部は南大塚駅から 16 号までは拡幅され、家屋移転もなされたところまでは承知しておりますが、その後の構想はどのようになっているのかというのが一点でございます。

もし中長期的な構想になったということであるとすれば、その廃線を利用して、南大塚駅から入間川の河川敷までの遊歩道あるいは散策路的なものに整備していただけたらと思います。池辺公園へもアクセスしていただくといいのかなと思います。

それと、大東地区には外周道路というのがあるのでしょうか、構想路線かもしれませんが、その実現をしていただけたらと思います。

西川総合政策部長 車両基地の構想でございますが、当初、平成 20 年 3 月までに整備をしていくという構想がございましたが、平成 30 年 3 月までに事業計画を延長するという話を西武鉄道から聞いております。

また、車両基地の外周道路につきましては、平成 24 年末までに早期に着工できるように努力したいというお話を伺っております。いずれにしましても、もう長年の間、用地買収等々地元の方にはご協力をいただいているところでございます。5 月に、地権者の会の代表の方々も市役所においでいただきまして、さまざまなご意見をいただいたところでございます。西武鉄道にも平成 19 年、20 年度と要望はしてきたところでございますが、なかなか実現ができていないという状況もございます。近々また西武鉄道のほうに要望活動をしていきたいと考えております。

廃線を利用しての遊歩道、散策路につきましては、1 年間の限定ではありますが、「つばさ」のロケ地周辺で、一部整備して開放しているとともに、南大塚駅からロケ地まで路線沿いの道路を通るウォーキングコースのパンフレットを配布しているという形で、西武鉄道でも対応しているようでございます。常時開放するのは安全性の確保という観点から非常に難しいという話を伺っておりますが、平成 18 年に西武鉄道の 111 周年記念事業として、路線敷を歩くイベントを行ったことがあると聞いてございます。お話をいただきました関係につきましては、機会をとらえて西武鉄道とまた協議をしてみたいと思っております。

《シャトルバスのバス停》

意見 南大塚駅の北口から川越駅西口の区間でございますが、大東出張所のバス停の時刻表が反対側を向いていて見えないんですね。見ようと思うと畑だし道路なので危ない

んですね。私は聴覚障害者で、耳が聞こえない者としては非常に危険なんですね。それにバス停が三つもあるんですね。なんで三つもあるのかなと疑問を感じたんです。

停留所については安全性を確保して、高齢者、障害者になるべくスムーズに乗れるようにしていただきたい。

西川総合政策部長 シャトルバスにつきましては、市内の公共交通を利用できないような所を回っているという実態がございます。時刻表につきましては、向きの関係もあるかと思いますが、長期間、雨や風にさらされて非常に見にくいところもあるかと思いません。大変ご不便をおかけして申しわけないと思います。

早速実態を調査いたしまして改善に努めてまいりたいと思います。市民の方が利用しやすいのが一番ですので、そのように努めていきたいと思います。

《シャトルバス》

意見 私もシャトルに何回か乗ってみるんですが、昼間ですと1人で乗っていて、恥ずかしいと思うようなときもたくさんございました。バス路線がないところを通るのがシャトルの役目だと思っているんですが、予算的には天文学的な赤字だということをちょっと聞いておりましたが、使いにくい路線のところについてはもう少しお考えをいただき、これを別な何かの形に変えられないかなというのがお伺いしたいところなんです。

タクシー券か何かを出して、使いたいときに利用するののも一つの手ではないかなと思っております。本当に行きたいところを通ってないということもありますので使いやすい形に、障害者、高齢者、それからバス路線が通ってないところについてはもう少しお考えいただいて、上手な使い方をしていただければありがたいなと思っております。

川合市長 シャトルバスにつきましては、以前は2,000万円弱の売り上げを上げるために、2億円ぐらいの経費がかかっているという状況でずっときました。平成17年に路線の見直しをやって、通勤客なども利用できるような路線を組み込むことによって、平成19年ぐらいから、売り上げが約3,000万円になりましたが、それでも経費は2億円近くかかっているという状況でございます。

これについては、私も何らかの形で見直す必要があるかと考えております。タクシー券という形で、障害者の方、あるいは高齢者の方にお渡しするような形をとるのか、あるいはオンデマンドバスという、要望があった場所に、小型のバスを回すようなシステムにするのがいいのか、どれが一番経費が最少に抑えられて効果が大きいのか、その辺のところを検討した上で決めていきたい。検討した結果、やはりシャトルバスの形で路線を工夫するという結論になるかもしれません。バス会社が営業に合わないというところを選んで走っているわけですから、赤字になるのは当然だと、そういうふう割り

切るのも一つの方法かと思えます。ただ、その辺についてはじっくり1年ぐらいかけて検討して結論を出したいと考えております。

《防災訓練》

意見 今年度に入りまして、市のホームページで、川越市の地域防災計画なるものが公表されました。非常に立派な資料であります。また、広域の防災訓練を2年に1回、その間は市役所のほうで図上訓練をされている、このように聞いております。非常に心強く思っております。

しかしながら、私たちも自主防災組織を立ち上げましたけれども、本当に地震が起きたとき機能するのかなのか、大変不安に思っております。

川越市の資料によりますと、直下型地震が起きた場合には川越市で死傷者が880名、重傷者が772名、被災者数が7万人、川越市の人口の2割に当たる方が被災するとなっております。このくらいの規模を想定して、実際行政は、各自治会、自主防災会はどのようなか一度検討していただいたほうがいいのではないかと思っております。

例えばで申しますと、防災無線があります。窓をあけた状況で調査をいたしましても、ほとんどの家庭では聞き取れない。窓を閉めた家庭においては全く防災放送が聞こえない。音量を上げてくれないかと申しましたら、近くの住民の方からうるさいという苦情が出るからということでした。市の対応としては、ボリュームを上げるのでいざといったときは聞けるはずであると。しかし、本当に聞けるのかなのかどうかは実際にやってみないとわからないんですね。

私も自主防災をやっておりますけれども、組織的に動けるかどうか余り自信がありません。そういう意味も含めまして、市が率先して、大規模災害が起こったときの各地域に対するご指導をぜひともよろしくお願ひしたいと考えております。

佐藤総務部長 この3月に防災計画を見直しまして、新たに弱者対策や、現地にも対策本部を置くなど、実効性のある計画に見直したというところでございます。

例えば震度5弱の地震が起きた場合には、大規模非常警戒体制第一配備ということで、監視体制、準備体制、第一配備体制としまして297名の職員をすぐに配置できるようにしております。第二配備については610名、実際に被害が起こっているというようなことになると853名、最悪の大地震ということで、被害が広がっているという場合には、全職員で班を編成しまして、順次出動するような体制をとってございます。

防災訓練というお話が出ましたが、昨年から具体的な防災訓練として、どういう機関と協力すればいいのか、どことどう連絡をとって、どういう形で動いたらいいのかのという、図上訓練ということを始めしております。これをさらにモデル地区をつくりまして、

地域の方々と実際に動いてみて、どの程度までお互いに協力してやれるのかというところに持っていかなくてはならないのではないかと、私も同じような考えでございます。

無線の話につきましては、さまざまな意見がございまして、遠い所は聞きづらい、近くの方がうるさいということで、我々も非常に苦慮しているところでございます。

それから自主防災会については年々組織がふえてきておりまして、今現在、約 60% の自治会に協力いただいて自治防災組織ができております。これを 100% に向けて我々も努力していかなくてはいけないと思っています。事が起こったときに、その地域の方を救う一番の力というのは、自主防災組織、地元の方が積極的に動いて、阪神・淡路大震災でもかなりの方の命が助かったという事実もございまして、我々としましても、そういった皆さんの日ごろのご努力を無にしないような形で、より実効性のある防災体制をつくっていきたいと考えております。

川合市長 防災の問題ですが、今の方のご提案は貴重なご提案として反映させていただきたいと考えております。新しい地域防災計画をつくって、それが現実に訓練でやってみたときに果たして機能するのかどうか、うまく機能しないのはどの部分なのか、そういうことを検証するためにもなるべく早い時期にそういう訓練をやってみたいと考えております。

実はことしの 8 月 30 日にその防災訓練をやるという計画ですったきたんですが、選挙にぶつかってしまいまして、ことしの防災訓練ができなくなってしまうということがございまして、できなくなったから 2 年先だというふうに考えずに、なるべく早い時期に新しい防災計画を反映したような形で訓練をやってみて、その効果といたしますか、うまくいったところ、まずいところを検証して、さらによりよいものに変えていくという、そういう作業をやりたいと考えております。

《避難所生活ルールの制定、広域避難場所の指定》

意見 避難所生活は被害が大きいほど長くなる。そのとき、パニック状態で冷静に生活のルールを話し合えるかと言いますと、なかなかできない状態じゃないかと思います。それには事前にこういった生活ルールというものの計画を立てておくことが不可欠な問題であります。単一の自主防のみでは対応に無理があるため、川越市のリードが必要となります。ルール制定に当たり、ひな型をつくっていただきたい。それから、広域避難場所の確保及び町内ごとの避難場所指定をお願いいたします。

佐藤総務部長 避難場所、避難所の確保、これは当然一番初期的な対応としまして重要なことというのは、おっしゃるとおりだと思います。避難場所については、この 3 月に地震のハザードマップをつくりまして、避難場所等について地図に落とし込みまして、

情報としまして全自治会長さんにお送りをしたところでございます。指定の問題ですが、基本的には、近くの場所を避難場所として、自治会であらかじめ話し合っていて、そこに定めていただくということは必要になるかと思えます。ただ、必ずしも自宅にいるとは限りませんので、こういう場所が避難場所であるということを市民の方々にもぜひ確認をしていただいた中で、一番安全な所に避難をするというのが必要ではないかと考えています。

それから、長期的に避難場所で生活をするようになった場合の生活のルールを定めておく必要があるということでございますが、それは当然のことだと思えます。

新潟の大地震のときに、川越市からも保健師を派遣しました。中核市ということで真っ先に手を挙げまして派遣をした次第でございますが、私も避難場所に泊まりましてその現場を見たわけですが、やはり狭い体育館の中でかなりひしめき合った生活です。

実際に目にしまして、長期になった場合、いろんな面で考えなくてはいけないなということを感じております。ただいまのご意見は貴重なご意見として、また協議をして詰めていきたいと考えております。川越市においてそういったことがもし起こった場合にも、国、県、ボランティアなどの協力をいただきながら、また市民と行政が協力しながら、できるだけ被害が少なくなるようにやらなくてはいけないと考えております。

《南大塚駅の通路》

意見 南大塚駅の横に南口から北口に渡る、鉄道をまたぐ通路があります。この通路については、川越市と西武さんがお金を出し合っただけでつくったと聞いておりますけれども、終電が終わると両サイドを閉じてしまうんですね。

先ほど西武さんとお話しする機会があるという話がありましたけれども、24 時間通れるようにご相談をしていただきたいと思います、こういうお願いでございます。

西川総合政策部長 西武鉄道には、今ご意見があった旨をお伝えして、一緒に検討していきたいと思っております。

《市民センターの建設》

意見 私、ちょっと遅れて来たもので聞き漏らしているのかもしれませんが、大東地区に市民センターないしは生涯学習施設の新設という話も出ているかなと思うんですが、その進捗状況はどうか、高階市民センターのようなものになるのか、そんなところをお伺いしたいと思います。よろしく願いいたします。

西川総合政策部長 大東地区の施設につきましては、平成 4、5 年から、市、住民の方とそれぞれお話をしてきている状況でございます。用地選定等の関係で、なかなか事業が進んでこなかったということも事実でございます。ここで地元の要望されたところの

用地につきまして地権者の方々のご協力が得られましたので、農振除外を行ってきたということでございます。

今後につきましては、やはり導入機能というところを重点に本年度は地元の方とお話をしていきたいと思っております。地元のそういう会が過日できたという話も聞いておりますので、そちらとあわせてやっていきたいと思っております。そこである程度導入機能が決定いたしましたら、実施設計に入りまして、地元の実情が得られましたら、建設というスケジュールになるかと思っております。

あと、高階市民センターとの関係でございますが、やはりあそこまでの大きなものはできないかと思っております。建設については地元と協議をしながら、地域性、財政状況などを考慮しながら進めてまいりたいと考えてございます。

《市民センターの建設》

意見 大東地区の市民センター建設の際には、女性、障害者の方など、設計の段階からいろんな分野の方を入れていただいて、どなたでも安心して安全な使い道ができるような方法をとっていただきたいと思っております。後で修正をすると予算上またかかるということもありますので、設計の段階からいろんな分野の方をお願いしたいと思っております。

西川総合政策部長 建設に当たっては地元と十分協議をしながら対応してまいりたいと考えてございます。

《池辺公園整備、関越の側道整備》

意見 池辺公園をもう少しスピードを上げて完成させていただきたいと思っております。

それから、子どもの遊び場は水上公園の池辺の北側の所に多目的広場ができていますが、あそこまで行くのに道が悪くて、あと関越の側道の整備も不十分です。それは現場を見てもらえばわかると思っております。

鹿ノ戸都市計画部長 池辺公園についてでございますが、30ヘクタールを計画地として計画しているところでございます。今現在は、樹林地のうち約1.3ヘクタールの所を平成19年、20年度に散策路、あるいはベンチ等を整備いたしまして、皆様にご利用いただいているというところでございます。

今後につきましても、川越県土整備事務所との協議もあるのですが、そういう中で残された樹林地等のところに公園をできるだけ早く広げていきたいと考えてございます。

ご意見用紙に対する見解

市職員の天下りは今後も続けていくのですか。

【見解】天下りは、行いません。

国号 16 号から池辺方面への道が一方通行になったため、迂回する車が他の狭い道を通り危険です。一方通行を解除してください。

【見解】本件一方通行につきましては、平成 17 年 1 月 22 日に当該規制路線の近隣住民 54 名の同意書を添付した、沿線住民 20 名の一方通行要望陳情書が提出され、埼玉県公安委員会の承認を経て一方通行になったものです。

今後、一方通行規制を解除するには、道路拡幅または、道路改良等により車両の相互通行が可能となった時かと思われまますのでご理解を賜りたいと思います。

南大塚駅南口の駐輪場内の電球が切れています。

【見解】7月21日に処置いたしました。本市の自転車置場は6箇所（川越駅西口、新河岸駅第一、第二、南大塚駅南口、北口、鶴ヶ島駅西口）ありますが、照明修繕については、年1回夏に一斉に実施してきました。今後は、半年ごとに照明の点検を実施したいと考えます。

大東小学校の児童が西武新宿線の踏み切りを超えて通学していますが、踏切が狭いので拡幅してください。

【見解】ご意見を頂いた踏切につきましては、西武鉄道狭山市第23号踏切で西武新宿線南大塚駅からひとつ狭山市寄りの踏切でございます。

当踏切は、前後の道路より狭いため、通学時の児童の皆様をはじめとして駅に向かう歩行者等の皆様には支障をきたしているところと認識しております。

このような状況から、市では、西武鉄道株式会社へ歩行者の安全確保に努めるよう申し入れ、平成18年度に踏切内の歩道部にカラー舗装を施行していただきました。

ご意見の踏切拡幅につきましては、前後の道路が安全に通行できる十分な幅員が確保されていることが条件となっておりますので、周辺道路の安全対策も含めて、引き続き西武鉄道株式会社と協議を重ね、歩行者の安全確保に努めてまいりたいと考えておりますのでご理解をお願い致します。

八瀬大橋から初雁橋周辺まで、入間川沿いを桜並木にしてください。

【見解】ご意見をいただきました、入間川につきましては、一級河川で初雁橋～関越自動車道までは、国土交通省の荒川上流河川事務所の管理で、関越自動車道～八瀬大橋までは、埼玉県川越県土整備事務所で管理を行っております。

初雁橋より下流は、桜つつみ整備事業として両岸堤防を活用し、更に法下を用地買収して、現堤防に盛土腹付けを行い桜の樹木を植樹し、市民の憩いとうるおいの場として、約1.9kmを整備しております。

今後、自治会等から入間川沿いの桜並木等の、整備要望が提出された際には、川越市としても国・県に働きかけをしていきたいと思っております。

大東西中学校には男子の運動部が4つしかありません。男女合同でも良いと思しますので、部活動を増やしてください。

【見解】部活動は、学校教育の一環として、同じ興味・関心をもつ同好の生徒が、学年・学級の枠を越えて集い、教師(顧問)の指導のもとに自主的・主体的に活動するものです。これから中学校に入学するお子様にとって、部活動は大きな関心事の一つとなっていることと思っております。やってみたい種目があると、なおさら中学校への期待も増し、意欲も高まるものと思っております。特に、中学生期は、心身ともに発達が著しく、運動や文化活動などの体験をとおして大きく成長する時期です。お子様に可能な限り選択肢を増やしてほしいという親御さんのお気持ちはよく理解できます。

部活動の開設ですが、学校では生徒のニーズ等を考慮しつつ、生徒数、施設、指導教員数や運動部と文化部のバランスなどの条件をふまえ、部活動の数、種目等を決定しております。また、部活動を指導する顧問につきましても、専門性や部員数、大会・コンクールなどの参加時の引率等、生徒の安全にも配慮して決定しております。

部活動の運営に困難な状況が生じた時に、一部の部活動で外部指導者を導入することもございますが、その場合にも教員を顧問として置くことが必要です。大東西中学校の男子運動部が4部・女子運動部が5部・文化部が3部となっているのも、学校の条件に照らし合わせた上で運営されていることをご理解くださいますようお願いいたします。